

医師国家試験への CBT 導入に関する研究

研究代表者 高木 康（昭和大学副学長・特任教授）

研究要旨

医師国家試験は国民の健康福祉・医療に貢献できる医師を選抜することが目的である。現行の医師国家試験は冊子形式での多選択肢問題（MCQ）で実施されている。MCQ は知識を評価するには適しているが、医師にとって重要な技能や態度の評価には必ずしも適していない。これらを経験可能な試験形式として卒前臨床実習前の医療系大学間共用試験実施評価機構で実施されている共用試験で採用されている CBT（computer-based testing）がある。CBT はコンピュータの特性を利用して、画像や音声などのマルチメディアを活用したり、後戻りできない機能を付設することでより深い知識ばかりでなく、一部の技能や態度・習慣の評価の可能性もある。

本研究では、医師国家試験のあり方として知識を問う筆記試験の有効な手段としての CBT の現状と将来、医師国家試験への導入の可能性について研究を行った。すなわち、

- ① 諸外国で導入が進んでいる CBT 形式について、我が国の医師国家試験への導入を前提とした費用面を含めた技術的、内容的な課題を明らかにし、適切な導入方法について提言する。
- ② 平成30年度にも開催が予定されている医師国家試験改善委員会に資する情報の提供を行う。
ことを目的として、
 - ① 過去2年間に実施した諸外国での医師国家試験の実態調査（CBT 導入の有無と問題作成、試験実施状況、評価基準の調査、OSCE 導入の有無など）の再整理を、CBT を中心に行った。
 - ② 医師国家試験における筆記試験への CBT 導入の有効性、特にマルチメディアを活用した CBT の有効性・実施の可能性について討議した。

米国やカナダ、台湾など医師国家試験で CBT を導入している国は多い。韓国では現行の CBT を改良し、タブレット PC を利用した SBT (Smart device based test) の開発・試行段階に入っている。これら諸外国でも動画や音声などのマルチメディアを活用した CBT の導入は行っていなかった。我が国の先端的な医学部ではすでにマルチメディアを活用した CBT を行っており、班員が開発したマルチメディア活用 CBT あるいはページング画像の CBT への応用についても検討し、現行の CBT より深い知識あるいは技能評価を行える可能性が確認できた。そして、マルチメディアを活用とした CBT は医師国家試験の改善に必要であり、研究班での試行を行い、さらなる検討を行う価値があるとの結論となった。